中学校　社会科　部会

部会長　赤池中学校　校長　白石　俊幸
実践者　糸田中学校　教諭　奥村　利恵

１　研究主題

思考力・判断力・表現力を高める社会科教科指導の工夫

２　主題設定の理由

（１）社会の要請から

新学習指導要領での社会科の目標は、「国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことである。その目標実現のために、社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることが求められている。現代社会が、情報化や国際化により急激に変化し多様化している中で、これからの社会を担っていく子どもたちには、社会的事象を単なる知識として丸暗記するだけにとどまらず、知識を活用し、自分の考えを持つ力、またそれらをまとめ表現する力が必要である。以上の理由により、生徒の思考力・判断力・表現力を高めることが必要であると考え、本主題を設定した。

（２）生徒の実態から

生徒を取り巻く家庭環境・教育環境も､必ずしも恵まれているとは言えない状況にあり、平成 23 年度の福岡県学力実態調査の結果によると、筑豊教育事務所管内の平均正答率は、県全体に比べ「知識」「活用」ともに、７ポイント近く低くなっている。その中でも特に「活用」に関する問題の平均正答率は、期待正答率を１５ポイント近く下回っており、思考力に関わる社会的事象の特色をつかんだり、因果関係をとらえたりすることが苦手であると考えられる。

また、置籍校で生徒の意識調査を行ったところ、社会科の力をつけるためには暗記することが最も重要であると考える生徒が全体の７５％に達しており、判断力に関わる学んだことを根拠にして社会的事象に対する自分の考えを持つことに苦手意識を抱えている。また、考えたことを文章等でまとめる活動にも抵抗感を感じる生徒が多い。

以上の理由により、生徒の思考力・判断力・表現力には課題があり、効果的に高めていく必要があると考え、本主題を設定した。

３　主題の意味

「思考力」とは、ある社会的事象がその他の様々な社会的事象とどのようにつながっているのかを推理し、追求する力であると考える。

「判断力」とは、社会的事象を様々な視点から見つめ、その社会的事象の価値に対する自分の考えを持つ力であると考える。

また、社会的事象に対する価値判断を行うためには、様々な思考活動で社会的事象を把握することが必要不可欠であるため、「思考力」と「判断力」は相互に作用しあうことで

高まっていくと考える。
　さらに、「表現力」とは社会的事象に対して思考・判断した結果を、文章等でまとめ、伝える力であると考える。

４　研究の目標
　単元全体を通して、自分の考えや資料から読み取ったこともとに自分の考えをまとめ、書く活動行うことで、思考力・判断力・表現力の育成を試みる。

５　研究仮説
　学習過程において、次のような手だてをとれば、思考力・判断力・表現力の向上につながるであろう。
　○単元全体で、考察し、その結果をまとめる活動に継続して取り組ませる。
　○ヒントカードの提示や活動中の個人評価を積極的に行う。

６　研究の計画
（１）単元　　世界と比べた日本の地域的特色「人口の特色」
（２）単元目標
○世界や日本の人口問題の具体的事例や課題に関心を持ち、意欲的に追求しようとする。
○世界や日本の人口問題について考察し、自分の言葉でまとめることが出来る。
○統計資料や地図から、世界や日本の人口分布や変化を読み取ることが出来る。
○世界や日本の人口の特色や課題について理解している。
（３）単元指導計画・評価計画　（総時間数 3 時間）

次	時数	学習活動・内容	評価規準				評価方法
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
1	1	1　世界の人口分布の地域的な偏りについて確認する。 ・人口分布の特徴 2　世界の人口の傾向をとらえる。 ・人口増加 ・人口増加に伴う諸問題	世界の人口問題について関心を持ち、意欲的に追求しようとしている。	世界の人口の特色と今日的課題についての要因を自分なりに考察し、ノートに書くことが出来る。			ノート 自己評価カード
2	1	1　日本の人口の特		少子高齢			ノート

本時		色をとらえる。 ・人口ピラミッドの変化 2　日本の人口問題を考える。 ・少子高齢化		化が進んだことにともなう日本の課題を自分なりに考察し、ノートに書くことが出来る。			自己評価カード
3	1	1　日本の人口分布の特徴をとらえる。 ・人口密度の地域差 ・国内の人口移動 2　過密と過疎を理解し、問題点について考える。		資料から読み取った日本の人口分布の特色をまとめ、ノートに書くことが出来る。	統計地図から、日本の人口分布の特色を読み取ることが出来る。		ノート 自己評価カード

7　授業の実際

（1）本時の指導観

本時は、少子高齢化が進む問題点を考察させることをねらいとする。我が国の人口の特色を、人口ピラミッドの変化を確認させることで視覚的に捉えさせるようにした。また、ヒントカードの提示や活動中に個人評価を行うことで、活動への意欲を喚起したい。

（2）本時の目標

日本の人口の現状を知り、それに伴う労働力の減少や社会保障費の増加といった問題点について考察し、ノートに記述することが出来る。

（3）本時の展開

	学習活動・内容	指導上の留意点 ◇評価規準（方法）	形態	配時
導入	1　前時の学習を振り返る。		全体	2
	2　本時のめあてをつかむ。	○日本で初めて人口の自然減が見られた 2005 年の新聞記事を紹介し、日本には前時で学習した世界の人口問題とは違った課題があることをつ	全体	3

	かませる。			
	日本の人口の特色と問題について考えよう			
展開	3　人口ピラミッドから日本の人口の現状をつかむ。 （1）人口ピラミッドの見方を確認する	○資料から、年齢別・男女別の構成が分かることをとらえさせる。	全体	8
	（2）人口減少前と後の人口ピラミッドを見比べ、年少人口が減少していることと、老年人口が増加していることをつかむ。	○「老年人口」や「年少人口」にあたる人々の社会的立場について想起させ、次の考察活動へとつなげる。	全体	7
	4　少子高齢化が進んだことにともなう日本の課題について考察する。 （1）考察した内容をノートに記述する。	○活動の進みにくい生徒には、少子高齢化が進んだ日本の課題に関する資料を見せ、資料をもとに考察できるようにする。 ○机間指導を行い、記述に○をつけることで活動への意欲を高める。 ◇ A：少子高齢化が進んだことにともなう日本の課題を自分なりに考察し、2 つ以上ノートに書くことが出来た。 B：１つノートに書くことが出来た。 （ノート、自己評価カード）	個	10
	（2）全体で発表する。	○机間指導で生徒の記述内容を把握し、適切な考えは全体で共有できるよう、指名して発表させる。	全体	5

	（３）資料を読み取り、考察した考えが適切であったかを確認する。	○全体での発表で出てきた考察を活かしながら､確認できるようにする。	全体	10
終末	5　学習のまとめをする。 （１）2025 年の日本の予測される人口ピラミッドを見る。	○生徒が生産年齢になったときの人口ピラミッドを見せることで、今回の学習内容が自分たちの課題であることを感じさせる。	全体	3
	（２）自己評価をする。	○めあてに対する自己評価がしやすいように 4 件法による質問に答えさせ、さらに簡単な記述をさせる	個	5

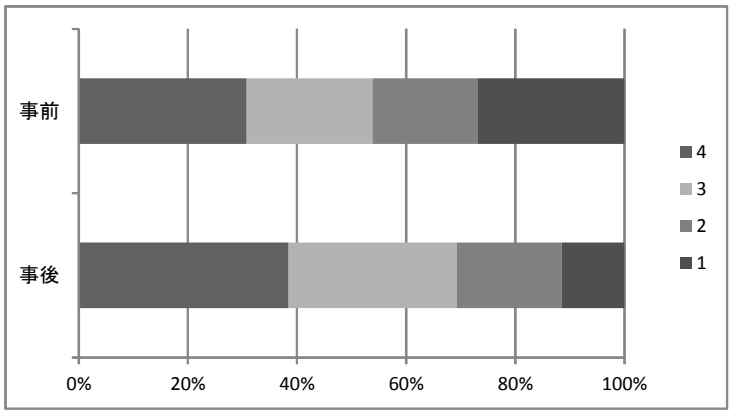
８　成果と課題

ノートの記述
　A〔ノートに２つ以上書くことが出来た〕８名（３１％）
　B〔１ つ書くことが出来た〕１３名（５０％）
　C〔書くことが出来なかった〕５名（１９％）
　８０％以上の生徒が、少子高齢化が進む問題点について自分なりに考察し、ノートに記述することが出来ていた。

○人口ピラミッドを比較させたことで、視覚的に日本の人口構成が変化していることを捉えられていた。
○考察活動と個人評価を平行して行ったことで、生徒の意欲を喚起することが出来た。ひとつ丸をもらった生徒がさらに考察活動を続ける様子が見られた。
○最初はまったく活動に取り組めていない生徒も､「ヒントカード」を参考にすることで、ノートへの記述が出来ていた。
●どのように変化しているかをノートにまとめる活動が滞りがちな生徒がいた。「『年少人口が』に続く形で」や「相違点を３つ」など、まとめるための視点を提示することで見通しを持って活動に取り組ませる必要があった。
●人口構成の変化が人口問題につながっているという意識を十分に持たせることが出来ていなかった。
●最終的に記述を行えない生徒がいた。さらなる手だての工夫が必要である。ペアや班での交流活動など、周囲の意見を参考にしながら考察を深める場面などを設定すべきであった。

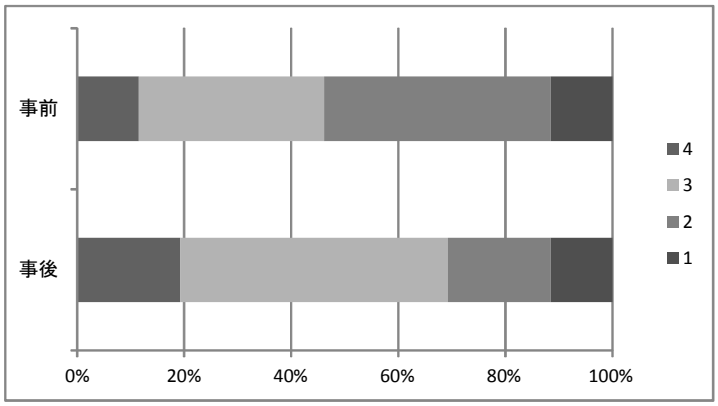
〔事前調査と事後調査の結果〕

・思考・判断・表現（実態調査：定期考査に文章で考察結果を解答する問題を３問設定した）5 月・11 月



４：３問解答
３：２問解答
２：１問解答
１：解答なし

・思考・判断・表現（意識調査）5 月・11 月



４：好きである
３：どちらかというと
　　好きである
２：あまり好きではない
１：嫌いである

○この単元では、単元全体を通して社会的事象に対する考察結果や資料から読み取った結果を自分なりの表現でまとめる活動を行った。継続した取り組みを行った結果、定期考査でも文章で解答する問題に取り組める生徒が増加した。

○意識調査においても、考察したり、資料から読み取ったりしたことを文章でまとめる活動を「好きである」もしくは「どちらかというと好きである」と回答した生徒が、事前は全体の４６％であったのに対し、事後は６９％にまで増加した。

●意識調査において、事前に考察したり、資料から読み取ったりしたことを文章でまとめる活動を「嫌いである」と回答した 3 人の生徒は、事後の調査においても同じように回答していた。苦手意識の強い生徒にも意欲を持って取り組めるような手だてを、さらに仕組んでいく必要がある。今後も日々の授業で粘り強く取り組んでいきたい。

●授業アンケートや生徒の発言から、未だに「社会科は暗記科目」という意識を持っている生徒が高いように思われる。今後も授業の中で、社会的事象に対する考察のおもしろさや重要性を感じさせられるような取り組みをしていきたい。